

Vol. 57
No. 695

オムニバス

Evocaciones & España



スペインの想出
(ロドリゴ、グラナド
ス、モレーノ・トロバ
ニン、フアリス、アルベ
ニス、ヴィタ＝ロボス、
コールズ、コロメ、田
中義の作品)

ジョーンズ&マルー
リ・テュオ(マイケル・
ケヴィン・ジョーンズ
(VC) アグスティン・マ
ルーリ(g))

(録音: 2007年10月)
[Emecid E075]

ジョーンズ&マルーリ、チエロとギターによるこの珍しい常設デュオは、これまで数点のアルバムを出しているほか、世界各地にコンサート・ツアーを重ねて人気をかちえている。この一枚は、プログラムに「スペイン」を打ち出し、《アランプエス協奏曲》の《アタージョ》から入って、フアリヤの《スペイン民謡組曲》を含む近代民族主義の名曲を連ねたのち、同じフラメンコ系のくぐりか、サイラ・ロボス《ブラジル風バツハ第5番》の《アリア》を含め、終わりの3曲は、このデュオに献呈されたいずれもスペイン風味の楽曲3篇としている。特に結びの曲は、日本から田中睦の《サン・イデルフォンソのノクターン》だが、秘めやかなチエロ助奏を伴う暗示的なギター曲で興味深く聴ける。腕が立ち、音色も美しくてなかなか聴かせるデュオ。チエロが時として任意に音を変えて弾き「おや」と思わせることもあるが、総じて乗りもよく豪闊気盛かでの形でのデュオの味わいを満喫させる。